

基準 A 地域貢献

IV. 短期大学が独自に設定した基準による自己評価

基準 A. 地域貢献

A-1 地域社会への貢献

A-1-① 自治体と短期大学の提携

A-1-② 短期大学の地域貢献

(1) A-1の自己判定

基準項目A-1を満たしている。

(2) A-1の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

A-1-① 自治体と短期大学の提携

八戸学院大学短期大学部（以下、本学）は開学以来、地域社会との連携を重視した学校運営を行ってきた。すなわち、各学科の教育理念・教育目的に基づき、それぞれの特性を活かして、地域社会の発展に寄与することができる人材の育成を目指し、地域に密着した教育活動を行っている。

平成22(2010)年度以降、八戸学院大学と近隣自治体との連携・協力協定の締結が推進され、平成26(2014)年には、八戸学院大学と本学の有する多様な専門性と人的・物的資源を地域において活用するために、八戸学院地域連携研究センター（以下、地域連携研究センター）が設立された。

本学と近隣自治体との連携協定について、表A-1-1に示す。

表A-1-1 本学と自治体との協定締結一覧（令和元(2019)年5月1日現在）

市町村	締結年月日	協定書名称
新郷村	平成26(2014)年3月27日	連携協力に関する協定書（包括連携／大学・短期大学）
階上町	平成27(2015)年3月26日	連携協力に関する協定書（包括連携／大学・短期大学）
五戸町	平成27(2015)年4月16日	連携協力に関する協定書（包括連携／大学・短期大学）
八戸市	平成27(2015)年12月24日	八戸学院大学、八戸学院短期大学及び八戸市における健康福祉連携協力に関する協定書
南部町	平成28(2016)年3月23日	連携協力に関する協定書（包括連携／大学・短期大学）
三沢市	平成30(2018)年3月22日	地方創生に係る包括連携協力に関する協定書 (大学・短期大学部)

これらの自治体から本学もしくは八戸学院大学に協力の要請があった場合は、地域連携研究センターがそれを受け、それぞれの事業に関連する教員と学生に対して応援を依頼する。本学の実績としては、新郷村との連携協定に基づいて「新郷村チャレンジデー」に教員と2年生全員が参加して保育園児と交流（平成26(2014)～28(2016)年度）、八戸市との健康福祉連携協力協定に基づいて平成27(2015)～29(2017)年度に行われた「八戸市介護人材発掘育成事業（ケアワークサポート研修）」に本学教員が協力、八戸学院大学と八戸市とのスポーツ連携協力協定に基づいて行われている「ジュニアサッカー教室」と本学教員が主

率する現代芸術教室「アートイズ」とのコラボレーション企画を実施（平成29(2017)年3月）等が挙げられる。また、それらの自治体の各種イベントに学生がボランティアとして運営協力したり、ステージに出演したりしている。平成30(2018)年度は、外務省が行う青少年交流推進プログラムJENESYS「21世紀東アジア青少年大交流計画」の実施団体の一つJICE（日本国際交流センター）への協力として、外国人青年の東北地区滞在受け入れ先である南部町と連携して、日本文化の紹介プログラム（書道・折り紙・エコ活動等）が行われた。

A-1-② 短期大学の地域貢献

本学では平成25(2013)年度から平成28(2016)年度まで「地域貢献の推進」を重点目標に掲げてきた。その結果、地域から依頼を受けて実施するだけでなく、自ら事業を企画し地域に向けた活動を立ち上げるようになり、平成30(2018)年度も多く地域貢献活動が展開された。

1. 公開講座

(1) 教員免許状更新講習

平成21(2009)年度から幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員を対象として、夏と冬の年2回、教員免許状更新講習を八戸学院大学と合同で開催している。平成27(2015)年度からは「子ども・子育て支援新制度」によって保育士の受講が始まり、受講者数が増加するとともに、保育士・幼稚園教諭が受講者の半分以上を占めるようになった。これを受け、幼児教育に関する選択講習を増やして対応している。必修講習の参加者数は夏期371人、冬期209人に上り、地域社会から一定の評価を得ている。

【資料A-1-1】教員免許状更新講習資料

(2) 青森県子育て支援員研修

平成28(2016)年度より、青森県の要請を受け、子育て支援員研修を実施している。講師には本学専任教員のほか、非常勤講師と八戸学院大学教員の協力も得ている。

【資料A-1-2】子育て支援員研修日程表

(3) 保育の学校

地域の保育者に対するリカレント教育の場を設け、卒業後も学び続ける保育者を支援するために、平成28(2016)年度より「保育の学校」を企画運営している。丸一日を使って、受講者が各時間帯にそれぞれ自分の希望する分科会を受講する方式としており、本学と八戸学院大学の教員に加え、外部からも講師を招いてバラエティーに富んだ内容の講座を実施しているが、日程の設定や周知の仕方に課題を抱えている。令和元(2019)年は介護福祉学科で再開する「介護の学校」（平成28(2016)年までは八戸学院大学健康医療学部人間健康学科が主催）と同日開催する予定である。

【資料A-1-3】「第3回保育の学校」リーフレット

このほかに学外で行われた公開講座として、平成30(2018)年度は「イングリッシュハンドベル入門講座」、「朗読講座」の実績があった。

2. 出張講義・出前講座

地域の学校等の要請を受けて、出張講義等も広く行われている。平成30(2018)年度に幼

児保育学科では6人の教員が幼稚園、小学校、高等学校等出張講義を行っており、内容は造形、音楽、運動遊び、インクルーシブ教育、進学指導等であった。ライフデザイン学科では3人の教員により、小中学校、高等学校、高等支援学校、教育委員会等において、読み聞かせ、コミュニケーション、情報モラルに関する出張講義が行われた。

3. 研修会講師

平成30(2018)年度は外部研修会について、幼児保育学科では8人の教員から、保育・教育機関や文化団体における21の研修会での講師の実績が報告されている。近年の特徴として、「保育士等キャリアアップ研修の実施について」(平成29年4月1日雇児保発0401第1号厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長通知)を受けて実施された保育者を対象とする研修への協力要請が多いことが挙げられ、これは幼児教育を専門とする准教授が担っている。

ライフデザイン学科では2人の教員から7件の報告があり、うち4件は教育機関、残りは行政機関と一般の民間団体であった。

4. その他

本学の専門性を生かし、一般市民を対象として継続的に行われている活動がある。

(1) 現代芸術教室「アートイズ」

美術の専任講師が幼児から成人までを対象として、現代芸術教室「アートイズ」(年齢別に3コース)を開催している。本学で定期的に開催するほか、外部ワークショップを開く機会も多く、八戸市内だけでなく、青森、岩手、宮城の東北各県で活動の実績を築いている。【資料A-1-4】「アートイズ」リーフレット

(2) ウォーキングクラス

地域の高齢者を対象として、健康促進のためのウォーキングクラスを本学体育館で週1回程度実施している。平成30(2018)年度からは2人の教員と学生スタッフ(ワークスタディー)の協働で運営されている。

【資料A-1-5】「ウォーキングクラス」リーフレット

(3) 子ども食堂

ライフデザイン学科の教員が立ち上げ、学生とともに、月に1回程度「子ども食堂」の活動を行っている。子どもや貧困に限定せず、地域の多世代交流の場として継続的に取り組んだ結果、平成30(2018)年度は八戸市内に2カ所、青森市内に3カ所を増設し、現在八戸市内では5カ所の子ども食堂が開設されている。【資料A-1-6】「子ども食堂」関係資料

(3) A-1の改善・向上方策(将来計画)

今後も八戸学院大学と協力し、地元自治体との連携を深め、本学の専門性・教育力を生かした地域貢献を行う。

A-2 地域に密着した教育活動と人材育成

A-2-① 三八地域をフィールドとした教育活動

A-2-② 地域発展に資する人材育成

(1) A-2の自己判定

基準項目A-2を満たしている。

(2) A-2の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

A-2-① 三八地域をフィールドとした教育活動

本学では、学生のほとんど（過去5年間の平均で約98%）が青森県南部地方および岩手県北地域から入学し、その多くが出身県に就職している。在学中は地域で実習を行うほか、地域をフィールドとした教育活動を活発に行っている。

1. 実習・ゼミナール等

幼児保育学科では「保育実習」、「教育実習」の実習先として地域の保育園、幼稚園に実習を依頼するとともに、実習指導として園長による講話を実施するなど、地域に密着した教育活動を展開している。またゼミナールやサークルを主体として、地域のさまざまな場において、吹奏楽演奏、ハンドベル演奏、プレーパーク、運動遊びの指導、障がい児との交流などの多彩な活動を行っている。平成30(2018)年度に市民に広く参加を呼びかけて実施した活動としては、音楽の教員による「オトノワ大作戦!〜つくってつくって、ならしてならして」、美術の教員による「八戸マテリアル・アプローチ〜こども、あそぶ、あーと〜」があった。

ライフデザイン学科では「インターンシップ」、「NPO論」、「地域産業論」などの科目で、地域を題材に使い、地域に出て学習するとともに、学生に対して企業経営者による講演を開くなど、地域に密着した教育活動を展開してきた。また、平成30(2018)年度は主にゼミナールを主体として、前述の子ども食堂のほか、絵本読み聞かせ（八戸市ブックスタート事業）、市民と学生がエネルギーを考えるシンポジウムへの参加、国際交流サークルでの各種イベント支援、学生による地域の取材・発信活動（はちたんガールズ）など、地域をフィールドにした教育活動を展開した。

これら地域をフィールドとした教育活動は、将来的に地域発展に資する人材の育成であるのはもちろん、本学の魅力を地域に発信する活動ともなっている。

2. 行事

学科ごとに地域に開かれた行事を展開している。それらの行事は学生が日頃の学びの成果を発表する場であるとともに、そこで参加者から共感、励まし、アドバイス等の反応を得ることで、それ自体が大切な学びの場ともなっている。

幼児保育学科では1年生を主体として、学生祭に来場した子どもを対象にした「手づくり！子どもの部屋」を開催し、グループごとに子どもが楽しめる遊びや造形活動を企画運営している。また、地域行事への参加として、八戸市七夕祭りの吹き流し制作を行うとともに、前夜祭の「八戸小唄流し踊り」に参加している。

【資料 A-2-1】「子どもの部屋」資料

【資料 A-2-2】「流し踊り」資料

2年生は卒業前の2月に開催される八戸市主催の「はちのへ子どもフェスタ」において、「表現」の学びの集大成として「ミニ・オペレッタ」発表を行い、4つのグループがそれぞれ工夫を凝らした舞台を披露している。毎年学生の保護者や卒業生だけでなく、地域の

大勢の子どもと保護者が来場し、温かい感想が寄せられている。【資料 A-2-3】「ミニ・オペレッタ」パンフレットおよびアンケート結果

ライフデザイン学科では、全員参加の「ボランティアデー」を毎年実施しており、平成30(2018)年度は平内町の山林において、植樹作業を行った。

【資料 A-2-4】「ボランティアデー」資料

3. ボランティア

本学は地域に根ざした高等教育機関として、地域の多くの施設からボランティアの依頼を受けており、学生に対してはキャンパス外の貴重な学びの経験として、ボランティア活動を推奨している。平成30(2018)年度の学生ボランティア活動は、届出のあったもので参加件数124件、参加者数431人となっている。活動内容はさまざまだが、保育所や幼稚園、小学校、福祉施設の行事の運営手伝いや出演の依頼が多い。

【資料A-2-5】学生ボランティア活動報告集計

A-2-② 地域発展に資する人材育成

A-1-②「短期大学の地域貢献」に記したように、本学の教育力は学生だけでなく、地域の人材育成に発揮されている。特に、教員や保育者として活躍する人々を対象とした講座は多くの場で実施されており、地域発展に資する人材育成に貢献している。

(3) A-2の改善・向上方策（将来計画）

今後とも、三八地域をフィールドとした教育活動を積極的に展開し、学生の資質の向上に努めるとともに、卒業生を含む地域の人材育成の支援を行う。ボランティアについては学生の意識が多様であるため、有意義な活動を行えるよう、学内での指導に留意する。

【基準Aの自己評価】

本学は現在6つの自治体と連携協定を締結し、さまざまな地域貢献活動を行っている。

本学の地域貢献の大きな部分は、地域の教員や保育者を対象とした教育の面で行われている。公開講座を開催するほか、教員が出張講義を行ったり、研修会で講師を務めたりする機会は非常に多い。また、教員が自ら立ち上げ、企画運営している公開講座もある。そのほか、子どもを含む一般市民を対象として、いくつかの活動が継続的に行われている。

学生の教育としては、実習だけでなく、ゼミナール等の授業でも地域をフィールドとした活動がさまざまに展開されており、また、行事やボランティアでも地域の方たちと交流している。

このように、地域をフィールドとした教育活動は、将来的に地域発展に資する人材育成であるのはもちろん、本学の魅力を地域に発信する活動ともなっている。